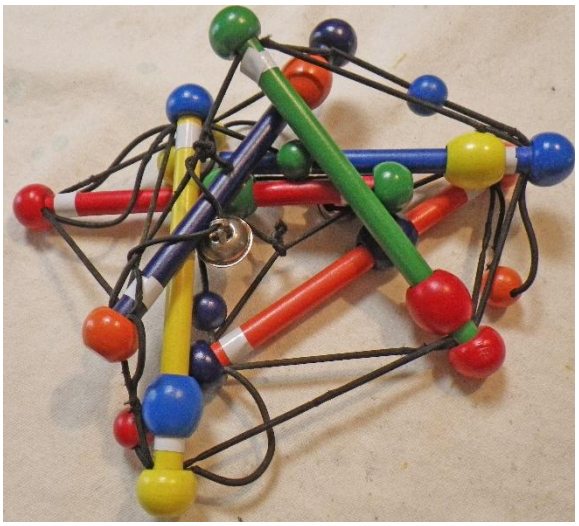
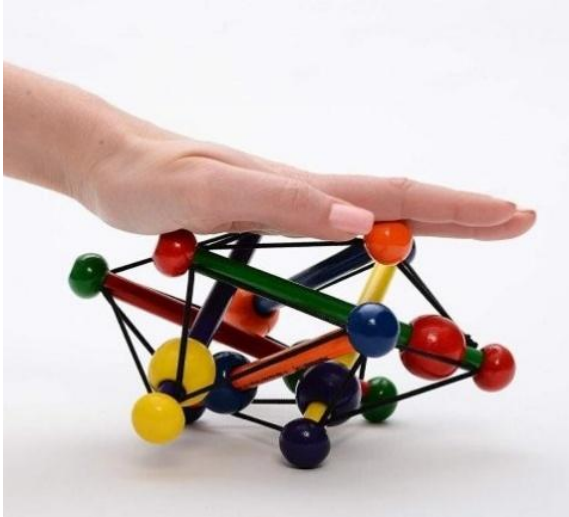
謎のおもちゃ「スクイッシュ」 続編

ゆきや（2025. 03. 06）

スクイッシュがまた来ました。５年ぶりです。原因はやはりゴムの劣化です。



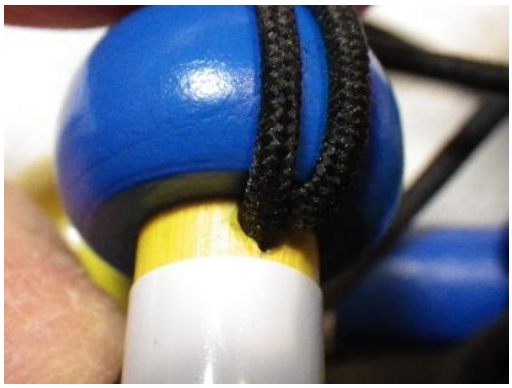


赤ちゃんが押しつぶしたり引っ張ったりして遊ぶおもちゃです。
マンハッタントーイ製で、日本ではボーネルンド社が扱っています。
ネット価格はおよそ４千円です。
左が今回のおもちゃ、右がスクイッシュのカタログの画像です。

よく観察するとちょっと違うようです。
① 棒の両端の球の色が左右で異なる事、
② ゴム紐に色球（６個）や鈴（２個）が付いている事、
③ 棒がやや細く長い事、などです。
そのため、復元はより難しくなりそうです。

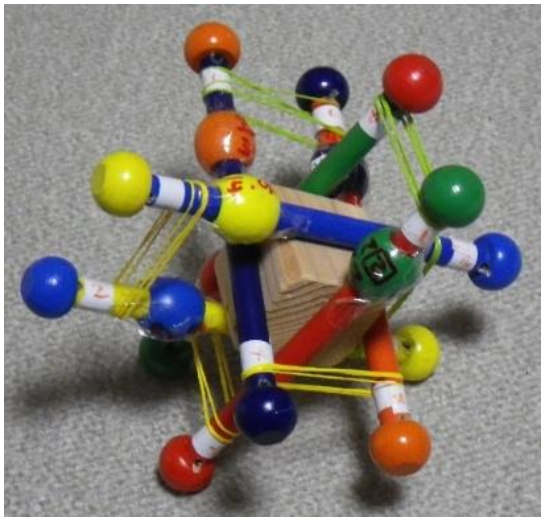
全体は棒の先端の球の根元を通るゴムで結ばれています。１カ所に２本のゴムが通りますが、全体は一筆書きです。引っ張り気味に張る事で、バランスが保たれている訳です。
そのゴム紐が、どのように張られていたのか？　現物から解き明かさねばなりません。

作り方を推測すると、棒に切れ目を入れ、ゴム紐を都合２度通し、最後に球をかぶせて接着したという事でしょう。球の下端はゴム紐にかぶさるほどで、これではなかなか抜けそうにありません。

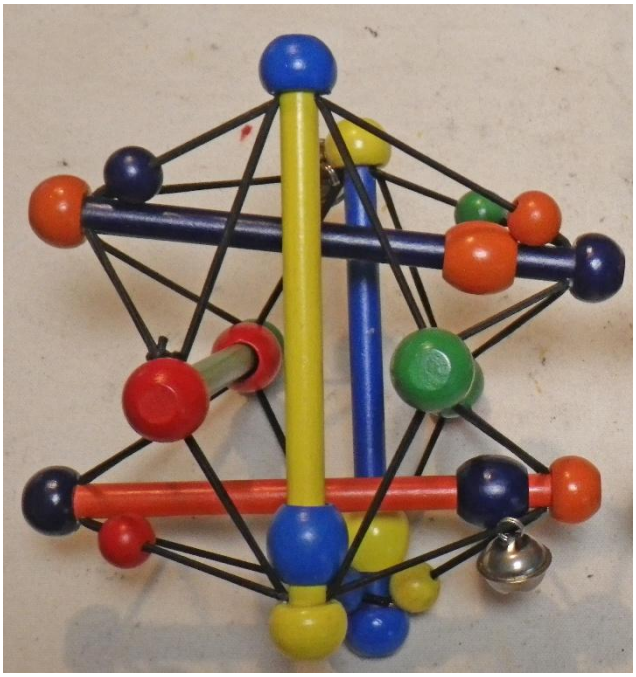


やや大きめの丸穴を開け、ゴムを引っ張って抜きながら、順番を辿ってメモを作りました。

そのメモを頼りに、復元にかかります。
この段階で、おもちゃ病院の場所をお借りしているスズラン館のルアンにスクイッシュの実物があったのを思いだし、借りて参考にすることが出来、助かりました。



６本の柱を組み立てます。
中央にたまたま手許に有った ４ ㎝立方の積み木のブロックを入れ、その周りに柱を輪ゴムで固定しました。
ただ見本とは球の色の配置が異なりますから、行き詰まったら一からやり直す覚悟でした。ゴムをやや伸ばしながら、紐を通してゆきます。
途中、果たしてこれで復元できるのか不安になった事も幾度かありました。

最後にゴムの伸び具合のバランスを調整してから、輪ゴムを切って芯のブロックを外しました。この段階まで、果たして自立してくれるのか不安で堪りませんでした。
ようやく立体の「スクイッシュ」を復元する事が出来ました。

使ったゴム紐は、およそ１メートル半でした。